

最新事情

社会で活躍するための心構えと姿勢を
着実に身に染み込ませる

仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科

(宮城県仙台市)

仙台市内に三つのキャンパスを構える仙台青葉学院短期大学は令和元年度に創立10周年を迎えた。教養と対人スキルを備えた職業人を育成することを目標に、現在は看護学科、ビジネスキャリア学科、リハビリテーション学科、こども学科など8学科を設置しており、約1400名の学生が学んでいる。さまざまな進路に向けて、職業意識の醸成を行うビジネスキャリア学科の取り組みを中心に伺った。



仙台駅から近い仙台青葉学院短期大学五橋キャンパス



ビジネスキャリア学科の学科長でもある、鈴木一樹学長

あらゆる職業で求められる 対人関係のスキルを重視

仙台青葉学院短期大学は、もともと専門学校を母体に設立された大学であることから、教養を磨くとともに、社会で即戦力となるよう専門的な技能と知識を身に付けることを目的としている。

「ほとんどの学科で、学生はそれぞれの学科名が表す職業を目指して学んでいます。しかし、ビジネスキャリア学科は、目指す職業については学びながら決めたいという学生が多く、その分さまざまな目標を持った学生が集まっています。」

す。一つのゴールを目指して一直線というものよいですが、ビジネスキャリア学科のよさは、価値観の多様性にあると感じています」。

こう話すのは、学長でもある鈴木一樹ビジネスキャリア学科長だ。いずれの学科でも対人関係能力、コミュニケーション力の育成は中心課題。人間関係がうまく築けず就職しても辞めてしまう若者は多い。技能を磨いても、生かせないのではもったいない。そのため、授業としてはマナー科目を取り入れていない学科でも、ゼミなどを利用して対人関係能力を育成しているという。

ビジネスキャリア学科の今井恵美子准教授は、企業に勤務した後、長年、専門学校で秘書教育に携わってきた。同短大で教鞭を執って5年目になる。今井先生はビジネスキャリア学科1年生前期必修科目の「ビジネスマナー」、後期選択科目の「秘書実務」で秘書検定とサービスマナー教育を行っている。他学科でもビジネスマナーを教えている。

授業で大切にしているのは「雰囲気づくり」と今井先生は説明する。

「学生には、周りの人が聞いて嫌にならない、見て嫌にならない言動をしましょうと伝えていきます。例えば何かやろうというとき『えー。やるのー?』と大声で言う学生。本人のやる気がどうというよりも、周囲の雰囲気が悪くなってしまう。勉強したいと思っている学生にまで嫌な気持ちにさせてしまう。そこに考えが

ビジネスキャリア学科の今井恵美子准教授。「学生はみんな誠実で真面目。だからこそ、こうしなさいと押し付けるのではなく、実際にやってみせての方がいいなと納得してもらおうと、合意形成を心掛けています」



1年生の今井ゼミ。この日は秘書検定準1級面接試験をテーマに身だしなみのチェックや報告のロールプレイング。学生たちはお互いに座り姿勢やスカートの丈を確認し合ったり、報告の練習を繰り返していた

及ばないのは自分本位だということです。秘書検定でいう「感じがいい」とは相手がどう思うかが基準になる。これを心掛けて、表現できるようになることを重視しています」。

学生とは違い、社会人とはつまり組織人だ。お金をもらってその場で求められる仕事をします。高校から大学に入ったときとは違い、考え方も行動も、ゼロから学び直すことになる。「秘書検定やサービスマン検定には仕事の進め方のノウハウも盛り込まれていますし、気持ちの持ち方も理解できます。あいさつや身だしなみ、振る舞い方も学べますから、仕事以前のことです」

「秘書検定やサービスマン検定には仕事の進め方のノウハウも盛り込まれていますし、気持ちの持ち方も理解できます。あいさつや身だしなみ、振る舞い方も学べますから、仕事以前のことです」

まずなくては済むでしょう。不安なく一歩を踏み出せる力になるのです」。

社会人になったらするべきことを学生の日常生活から実践する

授業だけでなく、今井先生はゼミでも、あらゆる側面から社会人としての意識や言動について指導している。特に、女性らしい表現力も磨いてほしいと、エレガントに見える所作、身だしなみについてはその都度アドバイスする。例えば、中ヒールくらいのパンプスを履いていると足首が引き締まって立ち姿がよくになるとか、椅子に座るとき背筋を伸ばした姿勢を30分を目標に保つよう心掛けると自然ときれいに座れるようになるなどだ。「こういうことを自分のものにするには時間がかかりますし、日頃の心掛けが大切です」と今井先生。

金曜の午後がゼミの時間だ。1年生のゼミではこの日、秘書検定準1級を題材にした面接のロールプレイングが行われた。全員がスーツにパンプスできちんと身だしなみを整えている。あいさつを終え、学生が口の字に配置された席に着いたところで、今井先生から「向かいの席の人のスカート丈はどうですか」と声が掛かった。学生がお互いに「大丈夫」「膝が見えてる、少し短い」と声を掛け合う。

身だしなみを整えるとき何を基準にしたかを全員が一言ずつ発言した後に、スーツの着こなし、髪の整え方、座り方、立ち方、足の置き

方、靴が合っているかなど、細かい点について先生からアドバイスを飛ばす。

鏡を見ながらお辞儀の練習をした後は、秘書検定準1級面接試験のDVDを見て、入室の仕方、表情、姿勢などを確認し、グループに分かれてロールプレイングとなった。

この間、立ったり座ったり机を動かしたりと学生たちはさまざまに活動するが、非常にきびきびしている。だからだるさを感じることがないのに驚いた。グループに分かれるときも、先生からメンバーが告げられると、指示を待つことなくさっと立ち上がって机を寄せ、すぐにディスプレイが始まった。

1年生がゼミに入るのは9月から。そこからの数カ月、自分たちで考えて動くことについては徹底してきたそうだ。

「社会に出たら全て指示してもらえないわけではありません。自分で周りをよく見て学び、考え、判断して行動する。いざしなくてはならないことは、今からしましょう、と常々話しています」(今井先生)。

少し先の自分を意識することが能動的な態度につながる

秘書検定準1級に合格、また今現在挑戦中の学生に話を聞いた。今井ゼミについて尋ねると、「一言で言うところ緊張感のあるゼミ」と口をそろえるのはビジネスキャリア学科2年生の佐藤早蘭さん、鈴木桃花さん、山内理愛さんだ。

最新事情 ⑦……仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科



「今は学生だけれど、これから先も学生気分では駄目ですよ」と、いつも先の話をしてくれるので身が引き締まるのだそう。

佐藤さんは最初は別のゼミに所属していたが、今井ゼミの先輩がハキハキとして自信にあふれた姿に見え、「私もあんなふうになりたい」と入り直した。「接客のアルバイトをしていますが、お客さまを上司と思って、何か依頼されたらどう答えるか考えたり、5W3Hを意識して要望を予測したり、勉強だと思って取り組んでいます。今井ゼミで学んで、特に意識するようになったのはオンとオフの切り替えです。ゼミや授業のときはピリッと、楽しいイベントのときは思い切り楽しむ。今井先生がそうしてくださるので、お手本にしています」(佐藤さん)。

鈴木さんは副ゼミ長の一人。2年生の6月には秘書検定準1級に合格した。「コミュニケーションにあまり自信がなかったのですが、学んだ言葉遣いや話し方を生かして実践していくうちに、周囲からも評価してもらえるようになって

り、自分に対して自信を持つことができました。卒業後は葬祭業に就職しますが、他のサービス業とは違って、きちんとした礼儀作法が大切な現場。ご遺族やご参列の方に寄り添ってお手伝いする仕事だと思います。一般常識もすっかり学んできたので、自信を持って仕事をしたいです。

ゼミ長の山内さんは「お辞儀の角度も実践的に教えてくださるので、自分の中にしっかりと染み込んできました。きれいなお辞儀が身に付いたおかげで、アルバイト先でもよく褒められます」と話す。「ゼミ長として、活動を計画して今井先生やゼミ生にきちんと共有していけるよう心掛けています。スケジュール確認のため手帳を使うことも、今井ゼミの2年生の間では浸透しているんですよ。今井ゼミは1年生と合同で行う機会も多く、1年生たちに分からないことがありそうなときは、相談しやすいようにこちらから声を掛けるようにしています」。

1年生の佐藤真奈波さんは、入学前に秘書検定3級に合格していたおかげで、マナーへの理解は早かったと話す。「後期の『秘書実務』で書き言葉遣いなどを学んだとき、初めてどんなふうに社会で役立つかわかりました。知らなかったらどうなるだろうと思うくらい、勉強してよかったと思うことばかり。緊張してあがってしまっているので就活が今から不安ですが、今井先生は就活の面接についてのお話もたくさん聞かせてくださるので勉強になっています」。

1年生、2年生のゼミともに、基本的な立ち

居振る舞い以外にも、気の利かせ方、判断や行動の仕方など細かく指導が入るが、決して手取り足取りではない。学生が自分で考えて行動するように、課題を投げ掛けている。そのことに学生自身も気が付いているのだろう。

学びで身に付けたマナーと表現力をインターンシップなどの場で発揮し、また授業やゼミで学ぶ。この繰り返しですが、すぐに出て行くことになるビジネス社会につながっている。集中して学ぶ2年間は着実に学生たちを成長させている。

(左から)2年生の佐藤早蘭さん、鈴木桃花さん、山内理愛さん。鈴木さんは既に秘書検定準1級に合格。佐藤さん、山内さんはともに筆記試験に合格、次は面接試験だ



1年生の佐藤真奈波さん。秘書検定準1級筆記試験に合格し、これから面接試験に臨む。「準1級筆記試験に合格したときは2級までとは違う達成感を味わえました。勉強時間もだいぶ増やしたので、思わずやった!と声が出たくらいです」